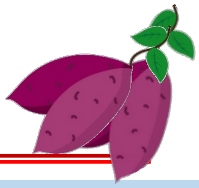
【ver.2025.2.13】

サンビオティック農業で大豊作！

さつまいも　栽培基準



◆苗床（育苗）◆

ステージ	内容	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備　考
定植1～2か月前	土づくり	完熟堆肥 菌力アップ	1トン 10リットル	土壌混和 全面散布	苗床の土壌pHが高い圃場では、立枯れ病など出やすいため、pH5.0～6.0程度の圃場を選びます。 土壌消毒する場合は、堆肥は土壌消毒の前後いずれかでもよいが、菌力アップは必ず土壌消毒後（ガス抜き後）に施用し、土壌混和し、微生物相を作っておく。希釈倍率は、適宜でよいが、目安として50～100倍程度。家畜糞尿堆肥は避け、植物性堆肥を使用する。種いもは、無病いもを使用し、必ず消毒します。
植付け前1か月～2週間	元肥	有機百倍 鈴成	10袋 10袋	土壌混和	地力に応じて、または品種や播種時期に応じて、有機百倍の量を調整します。
伏せこみ、植付け～採苗期間	発芽促進 生長促進	菌力アップ タスケルプ！	5リットル 100g（2000倍）	100～200倍希釈で潅水　7日おき4回以上	菌力アップで、発根促進、健病育成を促進します。チッソが足りない場合は、必要に応じて、追肥します。ポット苗定植の場合は、活着促進のため定植後、菌力アップを数回手潅水します。 4回やれない場合は、10リットル×1～2回潅水します。

◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備　考
3月	土づくり	完熟堆肥 菌力アップ	1トン 10リットル	土壌混和 全面散布	育苗と同様に、土壌pHは必ず5.0～6.0に調整する。 堆肥は、家畜糞堆肥は避け、植物性のものにする。植付けの1か月前までには施用して耕耘する。 土壌に窒素肥料が過剰蓄積している圃場では、つるボケすると同時に、芯腐れ（芯の褐変）や病害、貯蔵腐敗が出やすい。そのような圃場では、もみ殻または稲わら（裁断）を1～2トン、作付けの3ヵ月前までに混和しておくと良い。 ただし、ハリガネムシ、コガネムシ多発圃場では、堆肥は省略する。また前作にブロッコリー、キャベツや玉ねぎ、馬鈴薯などの冬春野菜を栽培した場合は、残渣は圃場外に持ち出し、残渣のすき込みはしないようにする。（害虫が寄ってくるため。）
		土壌消毒をする場合は、土壌消毒後（ガス抜き後）に菌力アップを10リットル（100倍希釈）を全面散布し、混和する。 消毒・施肥・畝立て・被覆を同時処理する場合は、消毒ガスが抜けた後、菌力アップ10リットル（50倍希釈）を畝に「潅注」する。さらに、通路にも菌力アップ100倍希釈を十分散布しておく。			
	元肥	有機百倍 鈴成 硫酸カルシウム 硫酸マグネシウム	2～4袋 5袋 40kg 20kg	土壌混和	元肥は、定植2週間前までに土壌混和する。品種、作型等によって、有機百倍の施肥量は調整する。前作で葉物野菜や果菜類を栽培した圃場では、肥料分が残っているので、有機百倍は省略してよい。鈴成を施用すると、病気に強く、また肥大性が良い。 大玉取り（加工用）で増収を目指すなら、株間または畝間を1～2割短くして、有機百倍+2袋、鈴成+5袋増やす。（当然、植え付けが早い方が大玉になりやすいので、できるだけ早く植える。） 硫酸カルシウム、硫酸マグネシウムは、市販のものを使用する。 マルチ被覆をしたほうが圧倒的に収量や品質が良いが、しない場合は肥料分の流亡を考慮し、有機百倍1～2袋を追肥する。
4～5月	定植後	菌力アップ 糖力アップ	10リットル 5kg	株元潅注（または潅水） 10日おきに2回以上	植付け直後、土が乾いていたら必ず株元へたっぷり潅水し、活着を確実にして、初期の葉の枚数を確保する。 活着後、菌力アップ、糖力アップを混用・希釈して、株元潅注（または潅水）する。 基腐れ病やつる割れ病の心配がある場合は、糖力アップをやめて、本気Ca（マジカル）を3リットル、菌力アップとともに株元潅注（または潅水）する。数回実施すると、耐病性が高まる。
6～9月	品質向上 病害対策	本格にがり 本気Ca（マジカル） マジ鉄	1000倍希釈 1000倍希釈 5000倍希釈	20～30日おきに葉面散布	近年問題となっている基腐れ病をはじめ、立ち枯れ病、つる割れ病などへの対策とするため、ミネラル施用は非常に重要となっている。 本気Ca（マジカル）は、有機酸カルシウムにより耐病性を高め、肉質を ち密にする。また、マジ鉄5000倍を加用すると、天候不良時の光合成能力の向上により、病害抵抗性を向上する。 本格にがりは、細胞壁を強化し耐病性を高める。なお、本格にがりは、芋質に繊維が強くなりやすいため、多用は控えること。（2～3回程度まで） なお、いずれも農薬との混用可。（銅剤との混用も可）
7月～8月上旬	追肥	硫酸加里	10kg	追肥	通路に粒状の硫酸加里（市販）を追肥し、肥大促進する。コーソゴールド5kg（200倍希釈）を2～3回散布しても良い。地上部生育が旺盛すぎるとき、害虫が多い時は、つる返しをする。
7月中旬～9月上旬	高温・乾燥対策	イーオス タスケルプ！	200倍希釈 2000倍希釈	葉面散布	猛暑日が1週間続いた場合は、夕方～夜間に10トン/10a程度潅水する。 翌朝、左記の葉面散布を実施する。乾燥・高温ストレスに対する耐性が向上し、内部障害や成長不良、収量不足への対策となる。鉄砲ノズル、遠距離ガンや、スプリンクラーでOK。農薬との混用は可。

※土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。